Vol. 20 2014.09

ROKKO NEWS

http://www.rokkorugby.com

特定非営利活動法人
六甲クラブ

春シーズン総括号

「谷・六甲」春からスパーク！

～芦屋クラブから10トライ。兵庫選手権「V7」達成～

日本一奪還へ、春シーズンから全開！

新主将・谷晋平を中心にスタートした2014年シーズンの六甲クラブは春シーズン、兵庫県選手権、名古屋クラブ定期戦などで順調に白星を重ねた。特に昨年度全国準優勝の名古屋クラブには68－10と快勝、兵庫県選手権でも芦屋クラブに70－3で完勝し、「7連覇」を達成した。谷主将が「春先から続けている練習の成果が表れている」と手ごたえを感じながらも「まだまだ満足していない」と、秋のシーズンインをにらんでさらなるチーム力上昇を誓った。

兵庫県クラブ選手権最終節（6月29日　芦屋総合公園G）

六甲ファイティングブル 70（21－3、49－0）3 芦屋クラブ

	芦屋クラブ	六甲FB
T	0	10
G	0	7
PG	1	7
前	3	0
後	0	49
計	3	70

▽交代　榎村（柏原高）＝ツー、高倉（大分大）＝山田、飯野（摂南大）＝上野、橋詰（同大）＝谷、福島（筑紫台高）＝吉田、小川（関学大）＝前田

六甲FB先発

FW	太一	帝塚山大
	樹	関学大
	純	大産大
	拓也	天理大（ディルーカ退）
	和之	天理大（手塚山大）
	元司	大商大
	嘉茂	大体大
	将平	摂南大
	晋機	近大
	勇郎	天理大
	宣幸	天理大（紫台高）
	勇太	天理大
	英之	立命大
HB	邑摩	甲南大
	島田	甲南大
	高橋	関学大
	加藤	大産大
	ツー	天理大
TB	志摩	天理大
	山田	大体大
	餘野	天理大
	藤山	大体大
	吉田	甲南大
	谷	立命大
FB	福島	関学大
	前田	甲南大
	寺本	甲南大
	三川	立命大
	玉川	甲南大

六甲ファイティングブル最大のピンチ。

六甲ファイティングブル最大のピンチ。と言ってよかった。

クラブラガーマンの宿命、日曜日の休日出勤者が続出。6月23日の名古屋戦以上に厳しいメンバーでもあった。

第7回兵庫県クラブ選手権決勝。兵庫県最強を決める大一番。どんな状況でも「六甲ファイティングブル」のジャージを着て戦うからには、ベストを尽くし勝利しなければならない。「思いっ切りやろう！」と主将の谷は言った。「思い切り走って、思いっきりパスして、思いっきりタックルしよう。そして絶対勝とう！」主将のゲキに不安は闘志と変わり、六甲戦士が真っ青な芦屋総合グラウンドに飛び出していった。

芦屋クラブのキックオフで始まった。タックル後の局地戦で芦屋の意識の高さが窺えた。タックルしてすぐ起きてボールに絡む。2人目の早さに六甲はなかなかきれいなパスアウトができない。

それでも前半13分。2週間前に第2子が生まれたばかりの巨漢CTB寺田が強引に芦屋防御を突破して先制のトライを決める。続く18分には逆目に展開したボールをPR島邑が巧みにフォローして前進。LOツーに渡りトライ。ゴールも決まって14－0とした。

この日は副将の志磨とともにLOに入ったツー。三木北高に勤務するALT（外国語指導助手）である。キャッチやセットプレーの安定に大いに貢献した。ド派手なプレーはせず、局面での地味な仕事ぶりに仲間の信頼も厚い。

「俺が、俺が、じゃなしに、チームプレーを意識しよう。トライもチームでトライを取ろう」。副将となった志磨も若手が多いFWをまとめていく。六甲7年目。発言とともにプレーにも責任感が感じられるようになってきた。

2トライをあげて六甲は少し落ち着いたのか、ここから芦屋の反撃が始まる。六甲のキックエリアマネジメントにもろい箇所を見つけ、そこを中心にキックを多用して六甲陣内に攻め込んできた。芦屋がボールを持つ時間帯が多くなり、六甲も反則を繰り返し、六甲も我慢の時間帯が続く。

それでも反撃を1PG3点のみで、ゴールラインを割らせなかったことには「大きな収穫です」と手ごたえを感じていた。

ツーのトライを加えて21－0でのハーフタイム。修正点を確認しあう。

まだやれる。もっとやれる。六甲戦士それぞれに自信の表情が見える。「タックル、ブレイクダウン。しんどくても1秒でも2秒でも早く起きよう。そこから新しい世界が見えてくる。せっかく日曜の夕方ラグビーしてるんだから、もっと楽しもう！」谷主将のゲキで再び気合を入れ、六甲戦士勝負の後半に臨んだ。その後半、PR越田（県芦屋→摂南大）、FL島邑（鳴尾→帝塚山大）、No.8藤山（神戸甲北→摂南大）、大津（報徳学園→大産大）の兵庫県出身の若手選手が大活躍した。地元出身の選手が、地元のクラブに入り、地元のラグビー活性化に貢献していく。クラブラグビーの素晴らしさだ。

兵庫出身ではないが…、FB玉川は途中腰を痛めながらも懸命のフル出場。左脚からのコンバージョンは9本全て決めるパーフェクトぶりだった。

10トライ10ゴールで70点。戦前の予想とは違って意外な点差がついた。もちろん課題もたくさんみつかった。しかしまだ春シーズン。秋に再び戦う時、芦屋クラブも全く違ったチームに仕上げてくるに違いない。「ハンドリングエラーや、反則による自滅が多かったですね。それでもメンバーがいない中でよく戦えました。この中で常にポジション争いができればもっと素晴らしいチームになる。まだまだ満足はできませんよ（笑）これからも頑張ります」（谷主将）

試合後の集合時、谷主将は大勝に浮かれることなくチームを引き締めた。「今日も試合に出られない人がたくさんサポートしてくれました。これが六甲クラブの強いところだと思う。チームルールもしっかり守っていこう！」様々な職業と世代が集まるクラブチーム。しっかりとした規律があってこそ、さらに強くなっていく。六甲ファイティングブル。

スポーツ振興くじ助成事業
toto
FOR ALL SPORTS OF JAPAN

WORLD　HYOGO-JR　ナカシマ　HOTEL PLAZA KOBE ホテルプラザ神戸　JTB　Perfect Trainers　三宮センター街コープ　兵庫介助犬協会

私たちは、六甲ファイティングブルを応援しています！

昨季準Vチームを敵地で圧倒！

名古屋クラブ定期戦（6月15日　瑞穂ラグビー場）

名古屋クラブ定期戦・新司令塔も躍動！

1969年創部の六甲クラブと、来年で創部50周年を迎える名古屋クラブ。数十年にわたって繰り広げられてきた「伝統の定期戦」は、梅雨の晴れ間の瑞穂ラグビー場で行われた。

昨年度の準優勝チーム、名古屋独特のムシムシした気候。今シーズン、初めてタイトな試合になることが予想され、円陣にも緊張が漂う。「きょう集まったメンバー。どれだけできるか、厳しい試合になるかもしれないけど、これはチャンスや。チャンスということは勝つということやで！」谷主将のゲキとともに、瑞穂のピッチに六甲戦士が飛び出していった。

キックオフから六甲は敵陣目指してフェイズを重ねていく前半15分だ。名古屋陣右中間22メートル付近のスクラムから出たボールをSO安部が突進。フォローよくFL山田がゴールラインに飛び込んだ。続く23分には№8向井がゴールポスト真下にトライ。安部のゴールも決まって14－0と試合の流れをつかんだ。

昨年にはなかったテンポの良さが目立つ。FWの前進も、相手より早く2人目が働きかける。HO加来の低い姿勢のままからの前進がゲインラインを大きく上げていく。

谷・安部のHB団の小気味良いパス捌きがチームに勢いを与えていく。28分、32分には谷主将もその破壊力を頼りにするCTB拝原が連続トライ。26－0でハーフタイムを迎えた。

六甲ファイティングブル 68（42－10、26－0）10 名古屋クラブ

	名古屋クラブ	六甲FB
T	0	2
G	0	0
PG	0	0
前	0	0
後	6	6
計	6	68

▽交代　榎村（柏原高）＝加来、高倉（大分大）＝山田、飯野（摂南大）＝上野、橋詰（同大）＝谷、福島（筑紫台高）＝吉田、小川（関学大）＝前田

六甲FB先発

FW	樹	関学大
	孝之	甲南大（ディルーカ退）
	純太	帝塚山大
	亮弥	京産大
	勇太	阪南大
	利之	大商大（ディルーカ退）
HB	祐	甲南大
	康裕	天理大
	都	関学大
	晋也	大体大
	宣郎	天理大
	一機	大体大
	勇英	立命大
TB	橋本	甲南大
	高加	甲南大
	島邑	甲南大
	大内	甲南大
	上野	甲南大
	山田	大体大
	向井	甲南大
	谷	立命大
FB	安部	甲南大
	和田	甲南大
	前田	甲南大
	拝原	立命大
	三木	甲南大
	玉川	甲南大

「どこまでやれるのか？」という不安が「やれる」という自信に変わった時、チームの力は想像以上に伸びていく。

後半も六甲の攻撃が止まらない。開始早々の1分。WTB三木が独特のステップで相手を交わしインゴールへ。安部も負けじとトライを重ねていく。FWも負けていない。大学1年LOの上野は少々危なっかしいが、恐れを知らぬプレーで前へ前へと突っ込んでいく。FB玉川は最後尾からの的確な指示とキックでチームを鼓舞。後半には自ら走り切りトライも上げた。

WTB三木はこの試合も巧みにトライを重ね、マン・オブ・ザ・マッチに輝いたが、本人も「ホンマはアベちゃんでしょ？」というように、チーム内ではSO安部を推す声も多かった。高校生と見間違う線の細さと、あどけない表情からは想像できない強気の攻めでゲームを支配し、試合を有利に進めていった。

コンバージョンも10本中9本成功させた。「アイツは本当に能力が高い」と谷主将も褒めたたえる。活躍ぶりだった。

10トライ、68点での勝利に「予想外の出来でした」と谷主将も驚きを隠せなかったが、「名古屋さんはウチにも細かいミスがあったし、流れがよかっただけ」と自分たちを見つめ直す。もっとも、春先からの走り込みの効果が随所に出たところには「成果って確実に出るんですね」と素直に喜んだ。

「いい内容で、春のターゲットを達成できました。しかしこれを次の試合でも続けなければなんの意味もない」と谷主将。日本一奪還へ、フォア・ザ・チームへ。まだまだやることは多いが、一つ一つの積み重ねが、個人を、チームを、クラブを成長させていく。

初の六甲東西連合軍で参戦！

北海道セブンズ、ホロ苦のボウル準優勝！

7人制ラグビーの「第3回・北海道バーバリアンズ、ピリカモシリセブンズ」が7月12・13日、札幌市定山渓の北海道バーバリアンズ定山渓グラウンドで行われた。

3回目の参戦となった六甲クラブは兄弟チーム「東京六甲クラブ」と初の東西連合軍を結成して、北の大地に殴りこみをかけた。

東京に転勤した前年度主将・山下誠を中心にした精鋭メンバーだったが、結果は2日間を通して2勝3敗、ボウルトーナメント準優勝と、少しほろ苦いものとなった。

セブンズは「ラグビーの祭典」。試合後のBBQや夜の懇親会では全国のラガーマンと交流を深め、また東西六甲クラブ同士でも熱い酒を酌み交わした。

前年度主将の山下誠は「神戸六甲の選手個々のレベルが上がっていて嬉しかった。このセブンズでは負けてしまったが、全国大会では北海道バーバリアンズに絶対リベンジしてほしい」と、2014年の新チームに期待をよせていた。

兵庫代表長崎国体出場決定！

「モーレツ」合言葉に3人の六甲戦士が大活躍！

国体近畿ブロック大会が、8月31日、滋賀県希望ケ丘球技場で行われ、兵庫代表プールBで滋賀県、京都府を撃破し、長崎国体出場を決めた。兵庫代表が本国体出場を決めたのは11年の山口国体以来、7人制では初めての出場となる。

今季の兵庫代表は、六甲クラブからは竹内茂芳、三木勇太、由良康美の3人が出場、トレーナーも六甲から狩野トレーナーが帯同した。

主将の竹内は「初戦は固さが出てしまったが、京都戦は会心のゲーム内容でした。国体本戦でも兵庫県のため、六甲クラブの代表として少しでもいい成績を残したい」と健闘を誓った。兵庫代表は10月19～20日に行われる「長崎がんばらんば国体」に出場する。

全国大会の代表決定方式変わる！

近畿ブロックトーナメントで関西代表2チームが決定！

「第22回全国クラブ大会」の代表決定方式が今季から変更された。全国の代表13チームが参加となり、関西枠は2代表となった。左表の通り、9月28日から「近畿ブロックトーナメント」が開催され、決勝に勝ち上がった2チームが全国大会・関西代表となる。

順調に勝ち進めば、決勝は11月9日、兵庫県ユニバ競技場補助Gで行われ、全国大会は年が明けて2015年1月から開催される予定だ。

第22回　全国クラブ大会
近畿ブロック予選トーナメント

- 11月9日(神戸ユニバ補助G) 13:00 KC
  - 11月2日(太陽ヶ丘) 14:40 KC
    - 9月28日 15:00KC(宝ヶ池)：六甲ファイティングブル
    - 9月28日：東宝治クラブ
  - 9月28日：奈良ムース
    - 9月28日：京都アドッチ
    - 9月28日：芦屋クラブ
  - 9月28日：スーパーマンクラブ
    - 9月28日：京都フリークス
    - 9月28日：千甲馬クラブ